

科目名	環境放射線科学Ⅱ			分野・必選別・単位数	専門科目	選択	2単位
担当教員	◎教授 鈴木崇彦 教授 岡本孝英 教授 富沢比呂之 准教授 高橋信喜					授業方法	講義
課程	博士後期	配当年次	2年	配当学期	後期	配当コース	診療放射線コース 医学物理士コース
授業の概要	社会に対する放射線の影響は、必ずしも実際の放射能、放射線に基因しないものが複雑に関与している。それは、目に見えない放射線、放射能の特徴であり、それが疑心、恐れなどの心理を生み、社会影響として現れてくる。本講義では、実際に福島県内での環境の線量測定や汚染状況の測定を通じて、リスクコミュニケーション、風評被害対策などについて体験し、放射線影響についての情報提供のあり方について討論する。						
授業の到達目標	①実際に放射能汚染の状況を測定することによって、これまでの福島県の放射能汚染状況報告書を読み取り、理解する能力を身につける。 ②その上で、汚染がもたらす被曝状況やそこから生じているさまざまな影響を理解し、説明できる。						
授業計画	回数	担当者			行動目標		
	1	鈴木 崇彦 教授 岡本 孝英 教授 富沢比呂之 教授 高橋 信喜 准教授			公表されている福島県の環境放射線、被曝状況についての報告書から、原発事故による放射能汚染の全体像を把握するとともに、その情報をもとに実際に福島県内に出向き、環境放射線量や環境の放射能汚染状況を調査して、その状況について討論できる。		
	2						
	3						
	4						
	5						
	6						
	7				調査・測定結果をまとめる。		
	8				福島県産農産物について、風評被害の実態についての情報を収集する。事故から7年の年月が経っているが、環境や農地の汚染状況はまだ回復途上である。そのような状況の中で、農業生産などの経済活動に対する影響を調査分析し、討論できる。		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13				環境汚染や被曝状況、農産物汚染状況、風評被害状況などの調査結果を基に、放射線被害におけるリスクコミュニケーションについて討論できる。		
	14						
15							
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	公共機関が公表している原発事故関連情報を収集し理解する。					
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、関連する成書や文献などを利用し、次回授業までに解決しておくこと。					
	【必要時間】	該当期間に30時間以上の予復習が必要。					
教科書	リスク認知とリスクコミュニケーション 柴田義貞(編集)						
参考書	必要に応じてプリントを配付する。						
評価方法	レポート80%、授業内での討論、質疑応答20% 欠席は減点の対象となる。						
その他履修上の注意事項	試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP1が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。						